

28. 肺血流シンチグラムが有用であった Hepatopulmonary syndrome の一例

尾崎 裕 住 幸治 京極 伸介
 中西 淳 新藤 昇 藤田 直樹
 高梨 智子 島村 智崇 古村 慎二
 片山 仁 (順天堂大浦安病院・放)
 佐々木信一 富永 滋 (同・内)

肺血流シンチグラフィにて経過観察中である Hepatopulmonary syndrome (HPS) の一症例を報告した。症例は57歳の女性で、5年前より労作時呼吸困難を認めた肝硬変患者であり、在宅酸素療法を続けていたが、呼吸困難が増強したため入院となった。単純写真では両肺底に間質影の増強を認め、CTでは肺底部血管の拡張を認めた。肺動脈造影や心エコーでは右左シャントをきたす疾患は認めなかったが、 ^{99m}Tc -MAA 肺血流シンチにて45%のシャント率を認め、前回入院時(29%)より進行していた。

^{99m}Tc -MAA 肺血流シンチ所見は血液ガス所見とよく一致しており、HPSの診断と重症度判定に有用であった。

29. 白血病に対する BMT 治療後の Chronic-GVHD に伴う換気障害を有した2例

川上 剛 森 豊 内山 眞幸
 福光 延吉 川上 憲司 (慈恵医大・放)
 内山 浩志 (同・小児)
 富永 滋 (順天堂大浦安病院・呼内)

症例1：19歳女性。Ph1染色体陽性の難治性の ALL。HLA一致の同胞から骨髄移植(BMT)を施行。再発時にDLT(Donor Lymphocyte Transfusion)を施行した後敗血症を合併。

症例2：12歳女性。Ph1染色体陽性の CLL。HLA適合の非血縁者からBMTを施行。

両症例とも胸部単純写真では両側肺の過膨脹と透過性の亢進を、CTでは肺の濃度の低下と気管支の拡張像を認めるのみであった。 ^{133}Xe 換気シンチグラフィで、症例1ではボース吸入で多発欠損を認め、両症例で両肺での洗い出しの著明な遅延を認めた。 ^{99m}Tc -DTPAエロゾルシンチでは著明な central deposit を認め、症例1では ^{81m}Kr ボース吸入シンチで高肺気量域での著明な換気欠損を認めた。以上からBMT後のChronic GVHDによる換気障害に換気シンチが有用であると考えられた。